

新理事就任のご挨拶

金沢大学医薬保健研究域保健学系 須釜 淳子

この度、歴史ある日本創傷治癒学会の理事を拝命いたしました。微力ながら学会の発展に貢献できるよう邁進していく所存です。

私の所属は看護科学領域慢性・創傷看護技術学分野であり、前任である真田弘美教授(現:東京大学大学院医学系研究科老年看護学/創傷看護学分野教授、第46回日本創傷治癒学会会長)から引き継ぎました。

創傷看護学とは、創傷発生および治癒に影響を及ぼす、生活の中に存在する全ての要因や患者の状態に対応する理論と技術を探求する学問です¹⁾。創傷が発生すると、生体に元来備わっている治癒メカニズムが働き、創傷は治癒します。しかし、「治りにくい創傷」が存在するのも事実です。創傷治癒を阻害する要因として、低栄養、基礎疾患などの全身的要因、外力、尿・便による汚染などの外部からの疎外要因、壊死組織、創感染などの創局所に存在する要因があります。これらの要因は日常生活から大きな影響を受けています。したがって、創傷予防・管理は局所治療だけでなく、ベッド、椅子、靴の適切な選択や栄養状態の管理、失禁、発汗などのスキンケアが重要になってきます。これらは、療養上の生活支援を担当する看護師がその予防や管理に責任をもって、実践して行く必要があると考えています。

創傷は決して特別な人々、特別な場所のみに生じるものではありません。あらゆる人々があらゆる生活の場で創傷に遭遇します。創傷がもたらす症状・健康障害には、出血、痛み・痒み、悪臭を伴う滲出液などの局所症状、日常生活や社会生活における活動制限、羞恥心、不快感や嫌悪感などの情緒的反応があります。情緒的反応を理解するには、ソーシャルサポート、コーピングパターン、ウエルビーイング、コンコーダンス、ヘルス・プロモーションなどといった創傷治癒理論以外の心理学や社会学を基盤とする理論を理解することも重要です。看護学は、人々の健康の維持増進、疾病からの回復を図り、また人々が健康問題を持ちながらも質の高い生活を行うための支援を行う実践学問です。創傷をもつ、あるいは創傷発生リスクのある患者の健康を回復・維持・増進させるには、これに特化した創傷看護学が必要です。

創傷看護学の醍醐味は創傷の可視性にあるのではないかと思います。私自身をはじめ、多くの皮膚・排泄ケア認定看護師がこの可視性に強く魅了されているのではないかと感じています。自身の実践した予防ケア、治癒促進のためのケアの評価を直接かつ客観的に創傷発生の有無、創傷の大きさ、あるいは創傷状態から得ることができるのです。特に褥瘡



NEWS
LETTER

日本創傷治癒学会

2016.7
No.94

●日本創傷治癒学会事務局

〒160-8582

東京都新宿区信濃町35

慶應義塾大学

医学部形成外科学教室内

tel.03-3351-4774

fax.03-3352-1054

e-mail: info@jswh.com

URL: <http://www.jswh.com>

ケアにおいては顕著であり、褥瘡経過を評価するDESIGN-R®の総点の推移を利用し、費用対効果を実証し、褥瘡ハイリスク加算のエビデンスの一つとなったことは、強く印象に残るできごととなっています²⁾。また、創傷自体が患者と看護師間のコミュニケーションの手段となり、心をひとつにして治癒に向かって互いが努力できます。患者を取り巻く医療環境、医療チームのコミュニケーション手段ともなりえます。さらに創傷の予防・管理はグローバルな課題であり、創傷看護を通して、国際的なつながりを実感することもできます。

創傷治癒学という学問体系の中で、創傷看護学の独自性は何か、イニシアティブをとって行っていくべきことは何かを模索しながら、理事としての任にあたっていきたいと思います。

[参 考 文 献]

- 1) 須釜淳子、他：創傷看護学とは、真田弘美他編：ナースのためのアドバンス創傷ケア、照林社(東京)66-74 2012
- 2) Sanada H, et al: Evaluating the effect of the new incentive system for high-risk pressure ulcer patients on wound healing and cost-effectiveness: A cohort study. Int J Nurs Stud. 2009; 47(3): 279-86.

第46回日本創傷治癒学会のお知らせ

- 会 期：2016年12月9日(金)・10日(土)
- 会 長：真田 弘美
(東京大学大学院医学系研究科 健康科学・看護学専攻 老年看護学／創傷看護学分野 教授)
- 会 場：東京大学 伊藤国際学術研究センター／安田講堂(東京都文京区本郷 7-3-1)
- テーマ：創傷治癒学のインテグレーション
—より学際的に、より実践的に、よりグローバルに—

演題募集期間：2016年7月19日(火)～8月23日(火)

大会 HP: <http://www.pw-co.jp/jswh2016/>

[大会運営事務局]
株式会社プランニングウィル(担当 西田)
TEL:03-6801-8084 FAX:03-6801-8094 Email: jswh2016@pw-co.jp

※上記演題募集期間と同時期で、研究奨励賞の応募も行います。研究奨励賞の応募には、演題登録時の抄録の他、学会 HP (<http://www.jswh.com/syourei/syourei.html>) にて申請書と業績の提出をする別途手続きが必要です。申請が完了したら、1週間以内に学会事務局より「研究奨励賞受理のお知らせ」というメールが届きます。このメールが届かない場合は申請が受付されておりませんのでご注意ください。詳しくは学会 HP もしくは日本創傷治癒学会事務局までご連絡ください。